

[参考]★コントロール位置説明 「側 side」に関する IOF トレイルO委員会見解：関連参考事項

以下は、現在トレイルOの世界的第一人者である IOF シニア・トレイルO・コントローラ、ブライアン・パーカー氏 (Brian Parker 英国) より得た参考事項である。

- ・ IOF □ ISCD (IOF 位置説明解説) p. 28 にはトレイルOにおける事例として「こぶ、北東側」の表記例が記載されているが、これは「こぶ Hill」、および「小さなこぶ Knoll」に関しては「側 side」は使用しないという今回の見解に反するため、IOF 規則委員会へこの事例の削除または訂正を要請する。
- ・ 「側 side」を使用する場合の特徴物からフラッグ までの妥当な距離について
原則としては特徴物に可能な限り近付けてフラッグを設置すべきであるが、多少の差異は容認されるべきである。特徴物(部)と競技者との距離がどれくらい離れているかに関係してくることだが、その距離が極端に近い場合を除いて、一般的には、特徴物から 1m 以内であれば、すべて「側 side」として正しいフラッグであると判断されるべきである。
したがって、正解なし (Z) コントロールを設置する場合は それ以上にフラッグを離す必要がある。かといって 1m をわずかに超えるような設置の仕方は適切ではなく、2m 以上離れていることが必要だと考える。しかし、これは見る距離と透視度にもよる。WTOC2004 でのあるコントロールでは、公正さを確保するために、岩の表面から 3m 離れたところにゼロ・フラッグを設置したことがあった。
- ・ 「小さなこぶ Knoll」には「部分 part」は使わない。地図上であまりにも小さ過ぎるためである。
「部分 part」を使用する場合には 領域特徴部 (area feature) がなければならない。
- ・ 「根元 foot」を使用する場合は、傾斜 (slope) の始まり (= 終わり) が合理的に明確な (reasonably clear) 地点である必要がある。
- ・ フラッグの設置場所が正しかったがどうかの評価指針としては 正解率/不正解率が 67/33% 以上であることが必要であると考え。これは意識すべきことである。
その比率が 50/50 である場合は、コントロールとしてはあまり適当とは言えない。
100/0 (= 全員正解) の場合は、何にも考える必要がないコントロールであって、無駄なコントロールといえる。

注意すべきこと：

フラッグの設置場所については、精緻さ (precise) を追求し過ぎないことが大切である。

なぜなら、特徴物の形状や、位置説明の定義方法、そしてフラッグ棒の打ち込みかた等のほんの些細な不確定要素が 決定的な結果を招くことになりかねないからである。

トレインと地図とによって 一般的 (普遍的) 概念を維持することが大切である。

(It is important to maintain generalization with the map and terrain.)

小山注： 以上はすべてエリート基準 (Elite Standard) について述べているものです。